










病害虫発生予察情報予報第 13 号（4 月の予報）


佐賀県農業技術防除センター

I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名 ^{注1)}	4 月の予想発生量 ^{注2)} (平年比)	予報対象の病害虫 (抜粋)	
	赤かび病	並	 赤かび病	
	うどんこ病	並		
大麦 および小麦	<p>1. 赤かび病 本年の出穂期は平年並の見込みである（佐賀県農業試験研究センター・佐賀県米麦改良協会：令和 4 年 3 月 22 日付け麦づくり情報第 4 号参照）。ただし、播種時期等により生育にばらつきがあるため、圃場ごとの生育状況を確認し、適期に防除を行う。 大麦の防除適期は、葯殻抽出期（出穂期の約 2 週間後）で、更に、その 7 日後頃に 2 回目の散布を行うと、効果が高まる。小麦の防除適期は、開花始め～開花期（出穂期の約 7～10 日後）で、更に、開花 10～20 日後頃に 2 回目の散布を行うと効果が高まる。</p>			
大麦	網斑病	並		
	<p>1. 網斑病 一部圃場で発生を確認している。圃場ごとの発生状況や麦の生育状況を確認し、出穂期～穂揃い期に本病を対象とした薬剤防除を徹底する。</p>			
水稻	いもち病	並	 いもち病	
	ばか苗病	並		
	<p>1. いもち病 昨年、一部では穂いもちが多発生となった圃場が確認されている。発生が多かった地域では、菌密度が高まっている恐れがあるため、種子更新と既存の種子消毒剤にベノミル水和剤を加えた種籾消毒を徹底する。</p>			
タマネギ	べと病	早生マルチ	多	 べと病 (一次感染株)
		中晩生	多	
	ポトリチス葉枯症		やや少	
	ネギアザミウマ		やや多	
<p>1. べと病 一次感染株の発生が平年より多い。現在、早生・中晩生品種ともに主要な二次感染時期に入っており、この時期の防除対策を徹底することが、収穫期の多発生を防ぐために、極めて重要である。引き続き「一次感染株の抜き取り徹底」と「定期的な切れ目ない薬剤防除」を地域ぐるみで確実に実施する（令和 4 年 3 月 7 日付け病害虫対策資料第 12 号、3 月 15 日付け病害虫発生予察注意報第 1 号参照）。</p> <p>2. ネギアザミウマ 一部の圃場で発生が多い。本虫は薬剤がかかりにくい葉と葉の隙間に寄生しているので、薬剤は十分量を用いる。なお、本虫の食害によりできた傷口から他の病害に感染しやすくなるので、本虫の防除を徹底する。</p>				

作物名	病虫害名 ^{注1)}	4月の予想発生量 ^{注2)} (平年比)	予報対象の病虫害 (抜粋)	
施設果菜類	1. 虫害全般（アザミウマ類、コナジラミ類、アブラムシ類） 気温が高くなるに従い、施設内の害虫の増殖が盛んになるとともに、施設内への飛び込みが増加する。多発生を防ぐため、低密度時からの薬剤防除を行う。 2. 病害全般（灰色かび病、菌核病、すすかび病、葉かび病、べと病、うどんこ病、疫病、褐斑病） 加温機の稼働頻度が低下し、植物体への結露が生じやすいと考えられる。こまめな換気や早朝加温によって結露を防ぐとともに、発病部位の早期除去、予防的な薬剤防除を行う。			
イチゴ (本圃)	ハダニ類	並	 ハダニ類	
	うどんこ病	やや少		
	灰色かび病	並		
	アブラムシ類	やや多		
1. ハダニ類 多くの圃場で発生が認められる。下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布するなど防除対策を徹底し、気門封鎖系薬剤等を活用しながら密度低下を図る。また、天敵を放飼した圃場であっても、ハダニ類の増加を認めた場合は、天敵への影響を考慮せず、有効な殺ダニ剤による防除を行う。				
イチゴ (育苗圃)	1. 炭疽病 近年、本病の発生が問題となっている。病原菌の伝染を防止するため、ビニル雨よけ育苗を行い、定期的な薬剤防除を実施する。また、灌水を過度に行うと、高湿度条件が長時間維持され、発病が助長されるため、灌水はその日の天候やポットの乾き具合を考慮して実施する。			
キュウリ	べと病	並	 キュウリ黄化えそ病	
	うどんこ病	やや少		
	褐斑病	やや少		
	灰色かび病	やや多		
	アザミウマ類	やや多		
	コナジラミ類	多		
1. ミナミキイロアザミウマ：黄化えそ病、タバココナジラミ：退緑黄化病 媒介虫の薬剤防除を徹底する。また、ウイルス病の罹病株は伝染源となるので、圃場外に持ち出し、適切に処分する。				
トマト	葉かび病	並	 黄化葉巻病	
	灰色かび病	やや少		 黄化病
	コナジラミ類	やや多		
1. コナジラミ類：黄化葉巻病、黄化病 コナジラミ類の薬剤防除を徹底する。また、ウイルス病の罹病株は伝染源となるので、圃場外に持ち出し、適切に処分する。				
アスパラガス	アザミウマ類	並	1. 茎枯病、褐斑病、斑点病 立茎開始初期から薬剤防除を行う。また、発病茎は伝染源となるため、見つけ次第早急に除去し処分する。	

名物作	病虫害名 ^{注1)}	4月の予想発生量 ^{注2)} (平年比)	予報対象の病虫害 (抜粋)
果樹全般	果樹カメムシ類	並	
カンキツ	そうか病	並	 ミカンハダニ
	かいよう病	並	
	ミカンハダニ	やや多	
	1. ミカンハダニ 本年は発生がやや多い。殺ダニ剤に対する感受性の低下を避けるため、4月～6月下旬はマシン油乳剤の使用を基本とする。ただし、樹勢が低下している樹や着花が少ない樹では、マシン油乳剤の散布を控え、殺ダニ剤で対応する。		
2. かいよう病 前年発生した園や風当たりが強い園、罹病性品種（レモン、ネーブル、はるみ等）の植栽園、新梢の伸長が遅くまで続く園（幼木園、高接園、隔年交互結実栽培園等）では、展葉初期の防除を徹底する。			
ナシ	黒星病	やや少	
	1. 黒星病 本病の重要な防除時期である開花直前～落弁期は、7～10日間隔で薬剤防除を徹底する。SSで散布を行う場合は、必ず全列散布を行う。なお、降雨が続く場合はDMI剤の追加防除を行う。		
ブドウ	黒とう病	やや多	
	1. 黒とう病 新梢・新葉への感染を防ぐため、萌芽期～生育初期の薬剤防除を徹底する。		
キウイフルーツ	1. かいよう病 本病の特徴として、枝や幹から乳白色あるいは赤褐色の樹液（かいよう病菌を含む樹液）が漏出する症状がみられる（右写真参照）ので、発見した場合は直ちに切除する。また、すべての園において、6月まで感染防止のため銅水和剤を主体とした定期的な薬剤防除を徹底する。		 かいよう病菌を含んだ樹液の漏出
茶	カンザワハダニ	並	 カンザワハダニ
	1. カンザワハダニ 多くの圃場で発生が確認されている。多発後の薬剤散布では、防除効果が不十分となるため萌芽前までの防除を徹底する。また、薬剤散布は、葉裏、下位葉、すそ葉にも薬剤が十分かかるよう散布する。一番茶萌芽後に発生がみられた場合は、摘採前日数に留意し防除を行う。		
2. チャトゲコナジラミ 薬剤による防除効果は若齢幼虫期に高いため、成虫発生ピークの2週間後頃（目安としては、成虫の発生ピーク後に成虫の発生が終った頃）を中心に行う。			

作物名	病虫害名 ^{注1)}	4月の予想発生量 ^{注2)} (平年比)	予報対象の病虫害 (抜粋)
キク	白さび病	やや少	 クロゲハナアザミウマ
	アザミウマ類	並	
	アブラムシ類	やや多	
	ハダニ類	やや少	
	ハモグリバエ類	並	
	1. アザミウマ類 圃場によっては発生が散見されている。多発生し高密度になると防除が困難となるため、圃場での発生状況をよく確認し、低密度時からの防除を実施する。		

注1) 病虫害名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注2) 予想発生量については、平年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注3) 防除対策については「佐賀県病虫害防除のてびき」も参照してください。

佐賀県病虫害防除のてびき掲載アドレス

https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji00321928/index.html

QRコード→



II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去10年間）と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
○ 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（4ページの注釈にリンクが有ります）。

写真

- 1～4ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
6ページ目以降：定期調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

4月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する4月の気象条件については、福岡管区気象台発表の1ヶ月予報（令和4年3月17日）を基に、「気温：平年並」、「降水量：平年並」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	1ヶ月予報における4月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	30	40 (15.3℃)	30	並
降水量	30	40 (161.7 mm)	30	並

Ⅲ. 4月の予報

麦類

[【概要に戻る】](#)

定期調査:44圃場
(大麦22圃場、小麦22圃場)
調査日:3月14日~17日



定期調査圃場の様子(左:大麦、右:小麦)

1. 赤かび病

1) 予報の内容

発生量: **平年並**

2) 予報の根拠

(1) 4月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

2. 網斑病(大麦)

1) 予報の内容

発生量: **平年並**

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査(図1参照)

発生茎率 1.9% (平年6.3%、前年19.6%)

平年比: 並〈±〉

(2) 4月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

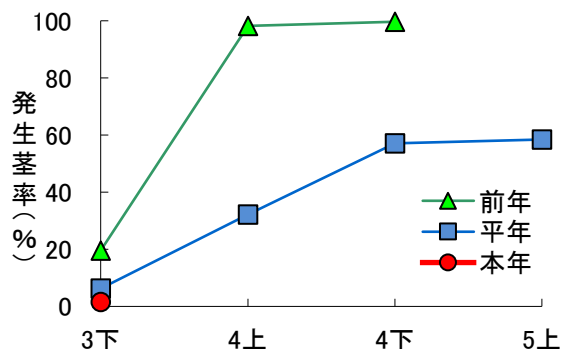


図1 大麦網斑病の発生推移

水稻

[【概要に戻る】](#)

1. いもち病(苗いもち)

1) 予報の内容

発生量: **平年並**

2) 予報の根拠

(1) 前年の穂いもちの発生状況

令和3年産水稻での穂いもちの発生株率は、上場地域の早期水稻(8月上旬)で8.7%(平年5.0%)、北部山間の早植え水稻(9月上旬)で13.1%(平年9.1%)、普通期水稻(10月上旬)で11.1%(平年16.0%)であり、早期では平年よりやや多く、早植え、普通期では平年並であった。〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 育苗箱で種籾が露出すると本病が発生しやすいので、覆土を適正に行う。

(2) 苗いもちがみられたら、早急に取り除くとともに防除を行う。

2. ベと病（中晩生）

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（一次感染株の発生推移は図1に、一次感染株と二次感染株の合計の発生推移は図2に示す）

発生株率（一次感染株と二次感染株の合計）：1.1%（平年0.8%、前年1.0%）、平年比：並（±）

※ただし、一次感染株の発生（発生株率 1.1%）は、過去5か年平均（同0.3%）より多い（+）

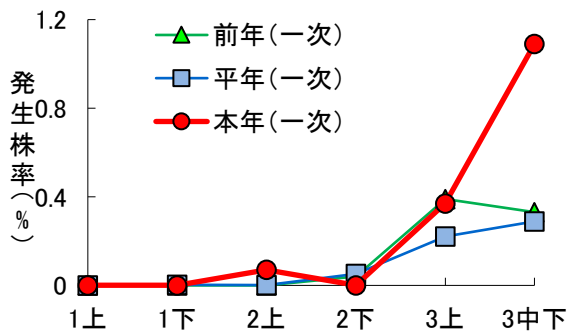


図1 中晩生タマネギでのべと病（一次感染株）の発生推移
注) 図1の平年値は、過去5か年平均。

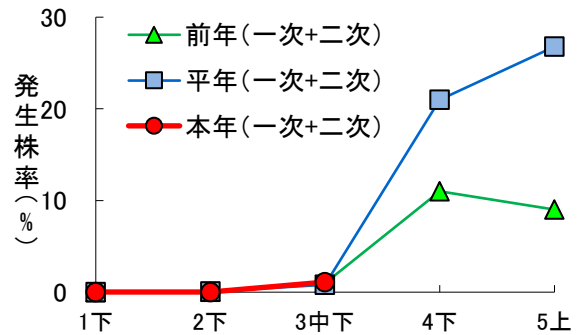


図2 中晩生タマネギでのべと病の発生推移

(2) 感染好適気象条件の出現状況

県内及び隣接県の気象観測地点計4地点での2月21日～3月21日の気象解析の結果、感染および準感染好適条件が、3月12～14日、3月18～21日頃に広域に出現した（早生の図3参照）。〈±〉

(3) 4月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項参照。

3. ボトリチス葉枯症

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：0%（平年3.3%、前年0.5%）

平年比：やや少（-～±）

(2) 4月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生を認めた場合には、速やかに薬剤防除を実施する。

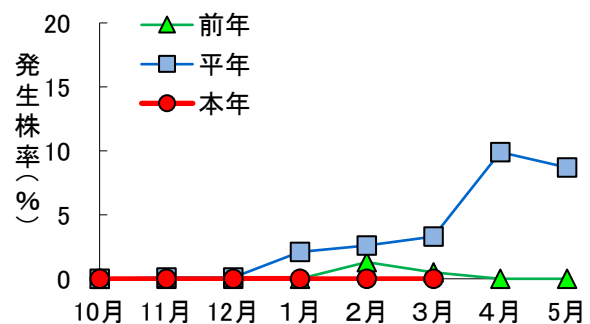


図1 タマネギボトリチス葉枯症の発生推移

4. ネギアザミウマ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1参照)

発生株率：8.5% (平年4.8%、前年14.2%)

平年比：やや多 (±~+)

(2) 4月の気象予報

気温は並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項参照。

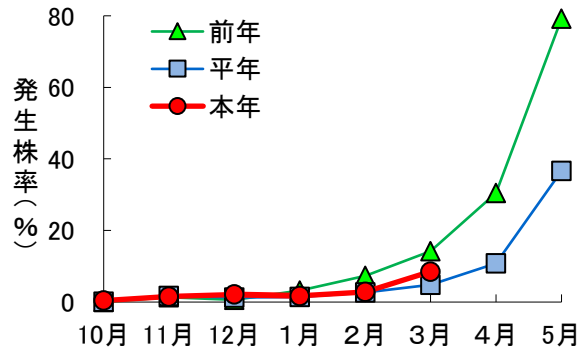


図1 ネギアザミウマのタマネギでの発生推移

イチゴ (本圃)

[【概要に戻る】](#)

定期調査 10 圃場、防除員 6 圃場

調査日：3月14~17日



定期調査圃場の様子

1. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1参照)

発生株率：24.8% (平年 24.0%、前年 31.5%)

平年比：並 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生圃場では、系統が異なる薬剤を組み合わせ、5~7日間隔で防除を実施し、密度低下を図る。

(2) その他については、特記事項を参照する。

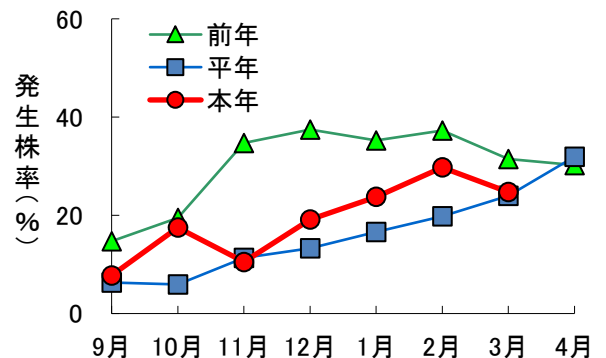


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

2. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1参照)

発生株率：0% (平年 3.0%、前年 0%)

平年比：やや少 (一~±)

(2) 4月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項 (施設果菜類の項) を参照。

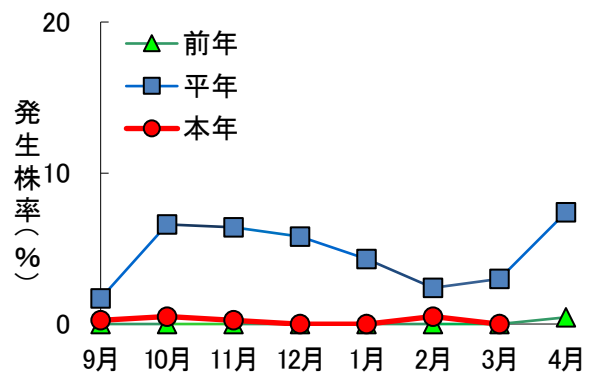


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

3. アブラムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：8.0%（平年1.1%、前年5.5%）

平年比：多（+）

ただし、発生は一部圃場に限られる

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤防除の際は、発生初期にミツバチへ影響の小さい薬剤を散布する（県病害虫防除のてびき P526～529）。

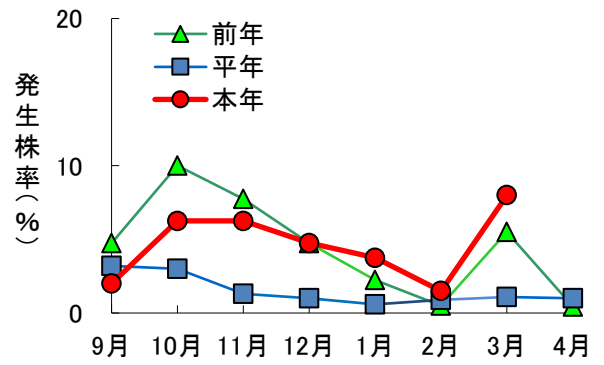


図1 アブラムシ類のイチゴでの発生推移

キュウリ

[【概要に戻る】](#)

定期調査 5 圃場、防除員 4 圃場

調査日：3月15～18日



定期調査圃場の様子

1. ベと病

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：0%（平年5.1%、前年3.3%）

平年比：やや少（-～±）

(2) 4月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項（施設果菜類の項）を参照

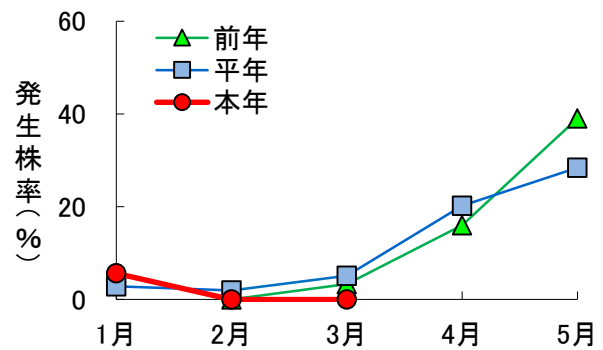


図1 キュウリべと病の発生推移

2. 灰色かび病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：2.2%（平年0.1%、前年0.6%）

平年比：多（+）

ただし、発生は一部圃場に限られる

(2) 4月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件（±）

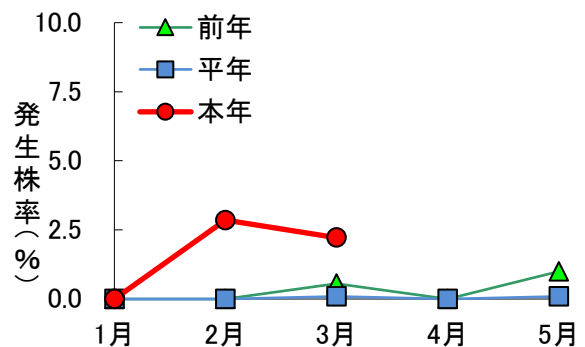
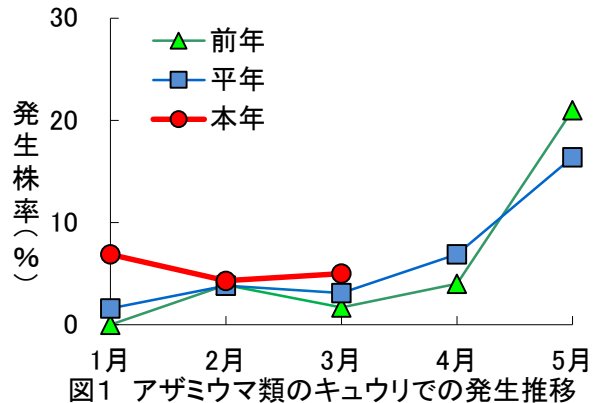


図1 キュウリ灰色かび病の発生推移

- 3) 防除上注意すべき事項
 (1) 特記事項（施設果菜類の項）を参照。

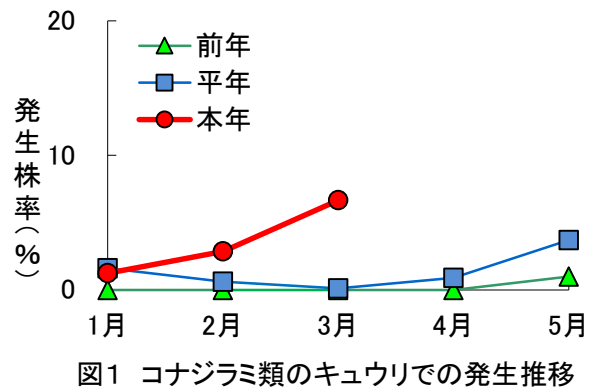
3. アザミウマ類

- 1) 予報の内容
 発生量：平年よりやや多い
- 2) 予報の根拠
 (1) 発生の現況
 ① 定期調査（図1参照）
 発生株率：5.0%（平年3.1%、前年1.7%）
 平年比：やや多（±～+）
- 3) 防除上注意すべき事項
 (1) 特記事項を参照。



4. コナジラミ類

- 1) 予報の内容
 発生量：平年より多い
- 2) 予報の根拠
 (1) 発生の現況
 ① 定期調査（図1参照）
 発生株率：6.7%（平年0.1%、前年0%）
 平年比：多（+）
- 3) 防除上注意すべき事項
 (1) 特記事項を参照。



トマト

[【概要に戻る】](#)

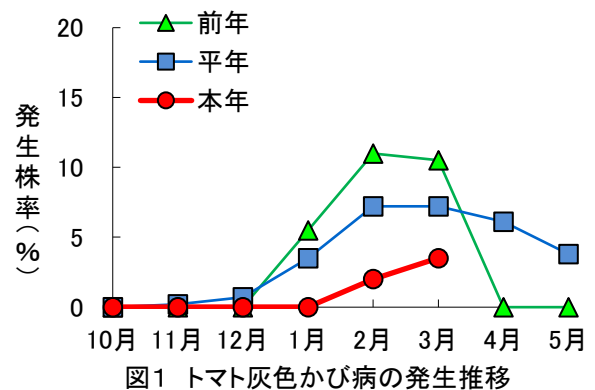
定期調査：6圃場、防除員4圃場
 調査日：3月11～18日



定期調査圃場の様子

1. 灰色かび病

- 1) 予報の内容
 発生量：平年よりやや少ない
- 2) 予報の根拠
 (1) 発生の現況
 ① 定期調査（図1参照）
 発生株率：3.5%（平年7.2%、前年10.5%）
 平年比：やや少（-～±）
- (2) 4月の気象予報
 気温は並、降水量は並で、並発生の条件（±）
- 3) 防除上注意すべき事項
 (1) 特記事項を参照。



2. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：4.0%（平年2.5%、前年2.5%）

平年比：やや多（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

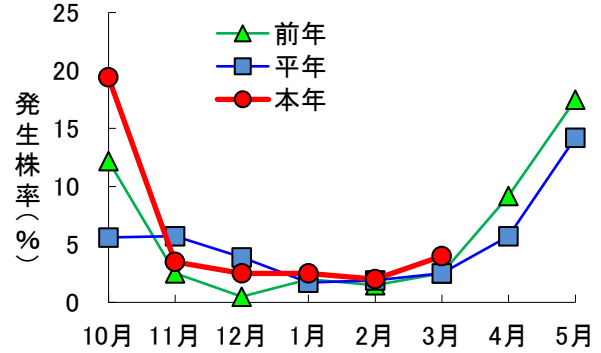


図1 コナジラミ類のトマトでの発生推移

果樹全般

[【概要に戻る】](#)

1. カメムシ類（本文掲載）

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) チャバネアオカメムシの越冬状況調査（表1）

①越冬地点率：29.4%（平年40.6%、前年18.8%）

平年比：並（±）

②平年越冬虫数：0.15頭/m²（平年0.29頭/m²、前年0.12頭/m²）

平年比：並（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 圃場をよく観察し、飛来を確認したら早急に防除を行う。

表1 チャバネアオカメムシの越冬状況（R4年2月上中旬調査）

調査地域	R4	平年	前年(R3)
	頭/m ²	頭/m ²	頭/m ²
みやき町	0	0.33	0
神埼市	0	0.93	0.3
佐賀市	0	0.07	0
小城市	0	0.17	0
多久市	0	0.13	0
唐津市1	0	0.13	0
唐津市2	1.0	0.16	1.3
唐津市3	0	0.10	0
伊万里市1	0	0.30	0
伊万里市2	0	0.47	0
武雄市1	0	0.46	0
武雄市2	0	0.29	0
鹿島市1	0.3	0.33	0
鹿島市2	0.3	0.37	0
鹿島市3	0.3	0.33	0.3
太良町1	0	0.30	0
太良町2	0	0.10	0
平均	0.15	0.29	0.12
越冬地点率(%)	29.4	40.6	18.8

各地点3か所(1か所/m²)の落葉を採集して持ち帰り、その中から確認した越冬虫数の平均
平年値はH24～R3までの10か年の平均

カンキツ

[【概要に戻る】](#)

定期調査：8 圃場
調査日：3 月 11～14 日



定期調査圃場の様子

1. そうか病

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1 参照)

発生葉率：0% (平年 0%、前年 0%)

平年比：並 (±)

(2) 4 月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 温州みかんでは、展葉初期 (最も伸びた新梢が 1cm 程度) に必ず薬剤防除を実施する。

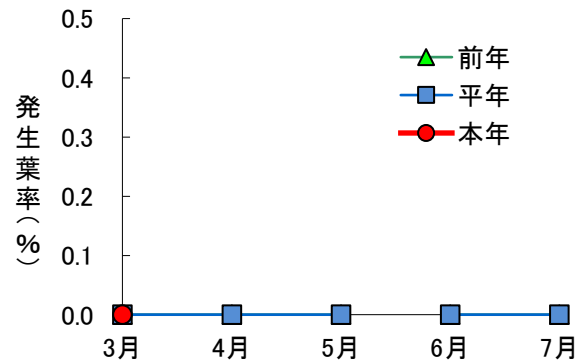


図1 カンキツそうか病の発生推移

(注：5月下旬までは旧葉、6月以降は新葉を調査)

2. かいよう病

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1 参照)

発生葉率：0% (平年 0.1%、前年 0%)

平年比：並 (±)

(2) 昨年 10 月の調査において発生を確認していない。(±)

(3) 4 月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

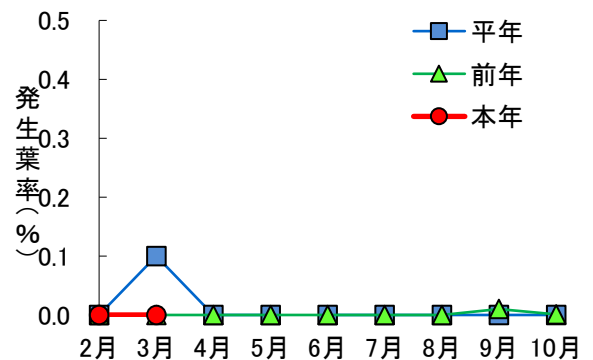


図1 カンキツかいよう病の発生推移

(注：5月下旬までは旧葉、6月以降は新葉を調査)

3. ミカンハダニ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1 参照)

発生葉率：5.4% (平年 3.0%、前年 8.0%)

平年比：やや多 (±~+)

(2) 4 月の気象予報

気温は並、降水量は並で、並発生の条件 (±)

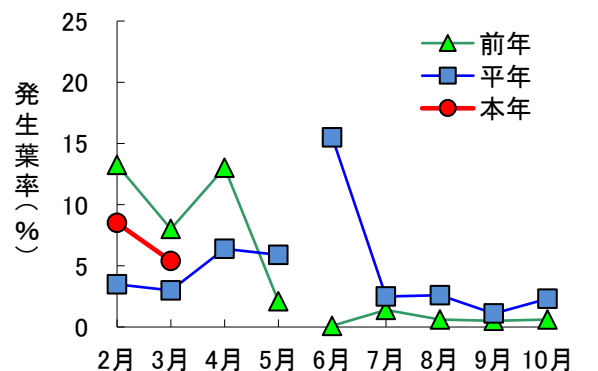


図1 カンキツでのミカンハダニの発生推移

(注：5月下旬までは旧葉、6月以降は新葉を調査)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるよう散布する。
- (2) その他については、特記事項参照。

ナシ

[【概要に戻る】](#)

1. 黒星病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない

2) 予報の根拠

(1) 昨年秋の発生状況

①定期調査（令和3年9月）

発生葉率：0%（平年3.0%、前年0.2%）

平年比：やや少（-～±）

このことから、園内の菌密度は、平年よりやや少ないと考えられる。

(2) 4月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 特記事項を参照。

ブドウ

[【概要に戻る】](#)

1. 黒とう病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 昨年秋の発生状況

①定期調査（令和3年8月）

発生葉率：2.5%（平年0.4%、前年0%）

平年比：多（+）

このことから、園内の菌密度は、平年より多いと考えられる。

(2) 4月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 特記事項を参照。

茶

[【概要に戻る】](#)

定期調査：7 圃場
調査日：3 月 11～14 日



1. カンザワハダニ

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生葉率：3.7% (平年 5.2%、前年 4.6%)

平年比：並 (±)

(2) 4 月の気象予報

気温は並、降水量は並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項参照。

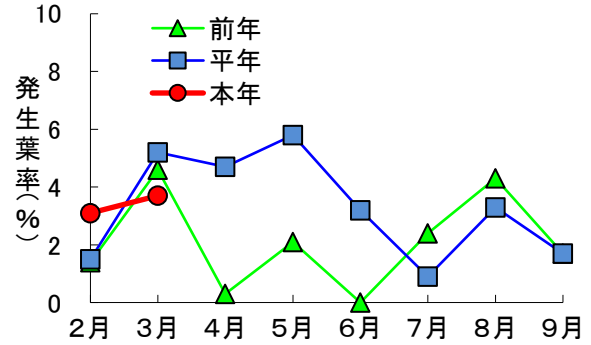


図1 カンザワハダニの茶での発生推移

キク

[【概要に戻る】](#)

定期調査：8 圃場
調査日：3 月 14～17 日



定期調査圃場の様子

1. 白さび病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率 0% (平年 2.7%、前年 0%)

平年比：やや少 (～±)

(2) 4 月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 換気を行うなど施設内の適切な湿度管理に努めるとともに、発病前からの定期的な薬剤散布を実施する。
- (2) 発病を認めたら、罹病葉を除去し、圃場外へ持ち出し適切に処分する。

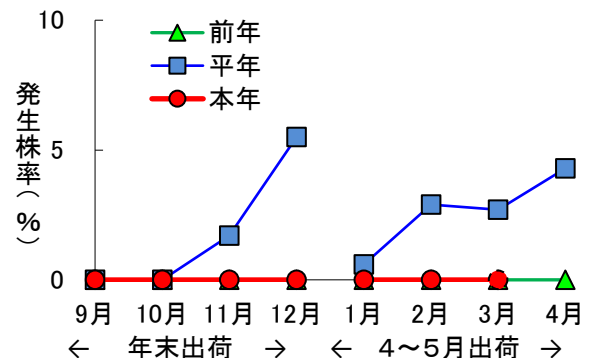


図1 キク白さび病の発生推移

2. アザミウマ類 (クダハアザミウマ、ミナキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ)

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1 参照)

発生株率 1.8% (平年 4.3%、前年 14.3%)

平年比：並 (±)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) ミカンキイロアザミウマが媒介するキクえそ病 (TSWV)・茎えそ病 (CSNV) の発病株は早急に抜き取り、圃場外へ持ち出し適切に処分する。
- (2) その他については特記事項を参照する。

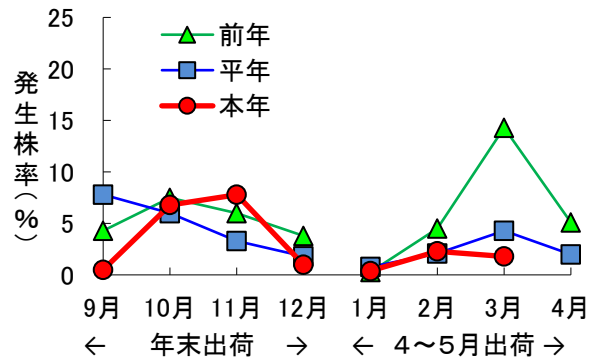


図1 アザミウマ類のキクでの発生推移

3. アブラムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1 参照)

発生株率 2.0% (平年 0.4%、前年 0%)

平年比：多 (+)

ただし、発生は一部圃場に限られる。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤がむらなくかかるよう、十分量を丁寧に散布する。

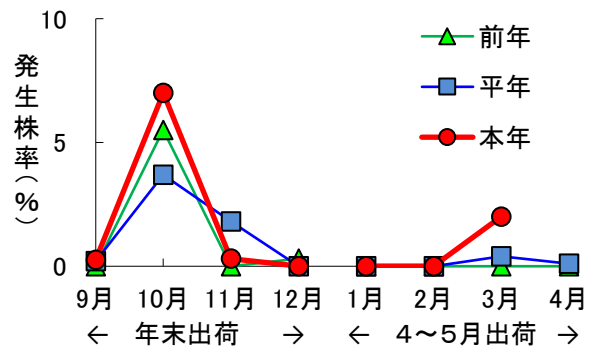


図1 アブラムシ類のキクでの発生推移

4. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査

発生株率 0% (平年 2.1%、前年 0%)

平年比：やや少 (-~±)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるよう散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

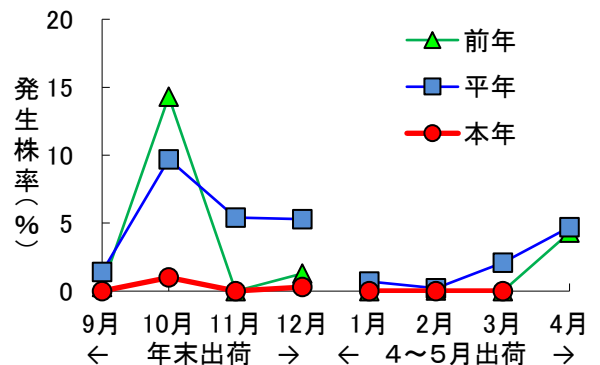


図1 ハダニ類のキクでの発生推移

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部

〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085

Mail nougyougi_jutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji00321899/index.html

